



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部



発行人 鈴木 富雄
事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区土佐堀1-4-8
日栄ビル703A あゆみコーポレーション内
Tel 06-6441-4918 Fax 06-6441-2055
E-mail jpc@jpc-a-youme.jp
[JPCA近畿ブロック支部ホームページ](http://jpc-kansai.jp)

ニュースレター No.51 (2026.3)

つながりをデザインするJPCA2026京都 — 目玉企画のご案内

梶本賀義 (和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 内科・総合診療科)

実行委員会広報チーム・テーマ企画チームの梶本です。今回はJPCA2026京都大会の目玉企画をご紹介します。第17回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(2026年5月29日~31日、国立京都国際会館)は、「つながる、つなげる。つなげる、つなげる。」をテーマに、学びと交流が循環する大会を目指しています。

まず毎年恒例の「Youは何しに学会へ?」は、初参加の若手や多職種の方が安心して学会に参加できる“入り口企画”です。今年度は対象を参加者全員に広げ、朝一につながりが見られるセッションを予定しています。

メインシンポジウムでは、医療・介護の持続可能性、多職種連携、地域と病院の接続、そして未来のプライマリ・ケア像を国内外の視点から議論します。

日本地域医療学会とのジョイントシンポジウムでは、「専門と総合」、「セカンドキャリア」を

軸にクロストークを展開し、多様なキャリアの実践から地域医療の未来を考えます。



交流企画としては、懇親会を再設計した「PCナイト」を開催します。ワールドカフェ形式を取り入れ、世代や職種を越えたつながりを促します。また、興味や関心に応じて企画を案内する「AIコンシェルジュ」や、進路相談ができる「キャリアカフェ」など、学会全体を“つなげる場”とした試みを準備しています。

京都での学びや出会いを、それぞれの現場での実践につなげる大会にしたいと考えています。ぜひ会場でお会いしましょう。

第17回
日本プライマリ・ケア
連合学会学術大会
— The 17th Annual Conference of Japan Primary Care Association —
つながる、つなげる。つなげる、つなげる。

2026
5.29 Fri ~ 31 Sun
国立京都国際会館

JPCA 2026 KYOTO

参加登録受付中 ▶



第17回学術大会実行委員メンバー

第38回JPCA近畿地方会：ありがとうございました！

川島篤志（福知山市民病院）

市立福知山市民病院 総合内科 第38回JPCA近畿地方会 大会長の川島 篤志です。開催予告→開催報告とニュースレタージャックになってしまっして申し訳ないですが、11月30日（日）に実施した地方会の開催報告です。

学生・初期研修医の方も含めて、195名の参加がありました。専攻医の先生方主体の口演には22演題の登録があり、事前収録を閲覧いただいた方のコメントも多数で当日の質疑応答は盛り上がったように思います。サプライズ的に各セッションで優秀賞も選出させていただきました。座長の先生方を中心に、学びの場を皆さまと創りあげていただきありがとうございました。次年度以降もこの方法を踏襲するかも？です。

Off the Jobトレーニングの3セッション（教育・研究・マネジメント）には、全国から延べ75名の参加を頂きました。2回連続、講師を務めて下さった、近藤 猛先生・見坂 恒明先生・天野 雅之先生に改めて感謝します。

さて、午後から現地（福知山）企画として、大会長から身体診察の講演（これはハイブリッド＝オンラインも可としました）をさせてもらいました。医師だけではなく薬剤師・看護師にとっても学べるネタだと自負しています。

その後、「何をしているの?? 認定薬剤師・学会認定プライマリ・ケア看護師・専攻医・認定医・

専門医？」というテーマで、2時間たっぷりお話しをしました。事前にHPに掲載していた情報も含めて、少しでも認定薬剤師・学会認定プライマリ・ケア看護師の認識が高まると嬉しいです。現地企画の運営には、福知山におられるプライマリ・ケア認定薬剤師の辻本 千代美先生・佐々木 優亨先生、当院メンバーにお世話になりました。

2026年は学術大会が近畿であることもあり、2年連続でのオンライン地方会開催になります。今回のノウハウを引継ぎ円滑な運営に努めたいと思います。

最後になりますが、実行委員長の稲岡 雄太先生・副実行委員長の石丸 裕康先生をはじめ、運営に関わっていただいた皆さま、ありがとうございました！



P-FES 2026 開催報告と御礼

竹内崇（大阪家庭医療・総合診療センター たいしょう生協診療所／大阪市）

2026年2月11日（水・建国記念の日）に大阪医科大学にて開催いたしました、「近畿家庭医療・総合診療専攻医ポートフォリオ発表会（P-FES : Portfolio festival）」は、お陰様をもちまして、盛況のうちに終了いたしました。

第18回となる今回は、昨年に引き続き現地開催を基本とし、一部オンライン配信を組み合わせたハイブリッド形式で実施いたしました。会場の熱気と双方向の対話を大切にしながら学びと交流の時間を共有し、現地およびZoomでのオンライン参加を含め、140名以上（うち約40名はZoom参加）という大変多くの方にご参加いただきました。事前に48名（多職種5名含む）の詳細事例報告の提出があり、当日は5会場に分かれてご発表をいただきました。発表されたポートフォリオの質の向上は、日頃よりご指導いただいております指導医の先生方の、年々深まる温かいご指導の賜物と拝察いたします。多職種が集い、多角的な

フィードバックを得る貴重な機会として、本会の意義を再認識することができました。最後には各会場ごとの優秀ポートフォリオの表彰を行いました。専攻医によるポートフォリオ詳細事例報告に加え、藤沼康樹先生による特別講演は、近年話題となった医療ドラマの話題に触れつつ、ベテラン医師を含む幅広い層の参加者が熱心に聞き入る、大変実りある時間となりました。ご参加いただきました皆様、そして発表者、評価者、並びに運営にご尽力いただいた実行委員の皆様、この場を借りて心より御礼申し上げます。

終了後の交流会には多職種を含む34名の方にお集まりいただき、互いにねぎらい、鼓舞し合えるかけがえのないひとときとなりました。来年度もより充実した会を目指して準備を進めてまいりますので、引き続き変わらぬご支援とご参加をいただけますよう、お願い申し上げます。

【実行委員募集のお願い】

本会は実行委員の熱意と献身に支えられ毎年開催されておりますが、残念ながら毎年人手不足に悩まされております。来年以降もこの貴重な学びと交流の場を継続させるため、皆様のお力添えが不可欠です。本会の企画・運営にご興味のある方、近畿ブロックの仲間と連携を深めたい方は、ぜひ次年度の実行委員としてご協力をお願いいたします。多職種・専攻医・指導医を問わず広く募集しておりますので、ご関心をお持ちいただけましたら、お気軽にご連絡ください。皆様のご協力を心よりお待ちしております。

P-FES実行委員お問い合わせ先：k.portfolio.festival@gmail.com



総合診療の期待と不安 とにかくしゃべりましょう！

川島篤志（福知山市民病院）

一昨年から継続している「総合診療選択に対する期待と不安 とにかくしゃべりましょう」を、2月7日（土）に開催しました。今回は主な対象である初期研修医1年目への情報伝達に工夫の余地があり、結果として1施設の先生方を中心とした会となりました。



当日は2グループに分かれ、文字通り“とにかくしゃべる”時間になりました。初期研修1年目の先生に加え、昨年も参加し次年度から総合診療プログラムに進むことを決めておられる2年目の先生が、指導医の先生とともに後輩を連れて参加してくださいしたのは嬉しい限りです。経験を一步先に進めた立場から語られる言葉は説得力があり、温かな循環を感じる場面もありました。

さらに、引率の指導医の福島 功士先生から神経POCUSのミニレクチャーをしていただき、その後は大阪医科薬科大学の医局見学。こういったのは刺激になりますね。途中からもうおひとり1年目の先生も合流し、終始和やかな雰囲気の中で率直な意見交換ができたのではないかと思います。ご参加くださった皆さまに心より感謝申し上げます。

本企画は、もうしばらく継続してみたいと考えています。参加者をどのように広げていくかは今後の課題ですが、ぜひ皆さまのお知恵とお力をお借りできれば幸いです。JPCA内でもBRIDGE-R

(Building Relationships and Individual Development for General medicine Engagement in Residents／初期研修医の総合診療参画促進を目的とした関係構築および個別成長支援) という新たな支援チームの動きがあると、今回のイベントにも関わってくれた青木 大先生から伺っていますし、他学会の取り組みとも連携しながら、初期研修医への声かけを工夫していければと思います。

各施設・各府県で初期研修医と接する機会をお持ちの先生方におかれましては、ぜひ早い段階から総合診療の情報に触れる機会を共有していただけますと幸いです。見学に来られる医学生や研修中の先生方への一声が、将来の進路選択を考えるきっかけになるかもしれません。

初期研修医の皆さんから「不安が少し軽くなりました」と言っていただけを目指して、来年も開催予定です。ぜひ引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、本企画はJPCA近畿ブロックからの補助金により実現いたしました。改めて、温かいご支援に感謝申し上げます。



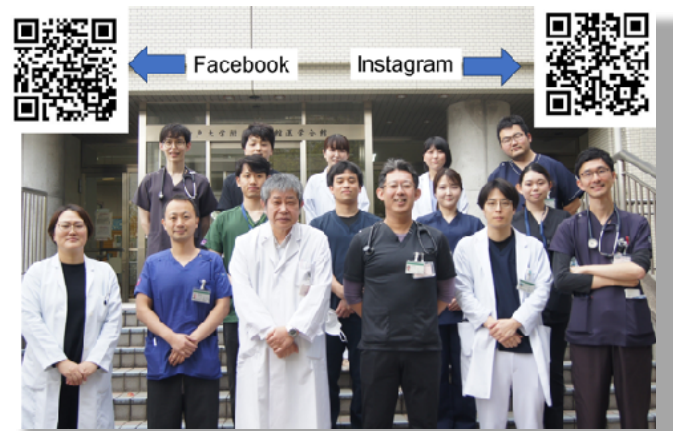


アカデミア 大学総診だより

合田 建 (神戸大学 総合診療部)

神戸大学の合田です。総合内科学部門は、1998年に附属病院に総合診療部を設置したことに始まります。2000年に総合診療部初代教授として秋田穂東先生が就任されました。2006年に内科学講座に地域医療関連としては全国2番目となる、県の寄付講座としてへき地医療学分野ができました。2009年に、組織再編により老年内科学講座と総合診療部が統合し、総合内科学講座が発足し、秋田穂東先生が教授に就任されました。2010年にはへき地医療学分野に橋本正良先生が教授に就任され、プライマリ・ケア医学へ改称されました。2013年に秋田穂東先生が県立柏原病院（現・丹波医療センター）の院長に就任されました。また、2014年に医学教育学分野が新設され、地域医療教育学部門に現当学会の兵庫県支部長の岡山雅信先生が特命教授として赴任されました。2015年にプライマリ・ケア医学講座を見坂恒明先生が引き継ぎ、地域医療支援学講座ができ、丹波医療センター地域医療教育センター長を兼任されています。2016年4月より坂口一彦先生が総合内科の診療科長となり、2019年より、救命救急センターの一翼も担い、内科救急疾患、院内コンサルテーション、他院からの紹介患者の外来・入院診療など幅広い診療を行っています。2025年度から乙井一典

先生が診療科長を引き継ぎ、2026年度は6人の教員（うち1人は産休中）に加え、総合内科医員が5人に増え、さらに各領域別専門科から派遣される若手や研修医と協働で「Generalist as a specialist」「Specialist as a generalist」が集う多様なチームで診療しています。私自身は2023年に新設された医学教育推進センターに属し、臨床研修医の教育にも積極的に携わりながら、緩和支援診療科、大学院生活の傍ら、自分好みに診療・教育・研究に携わっており、多様な働き方が実現します。当科での活動内容も活発に情報発信していますので、ぜひフォローや実際にご見学いただければと思います。



第7回 KPCA 薬剤師WGミーティング開催 「ポートフォリオの意義とは」

鈴木 渉太 (和歌山県立医科大学)

2月13日、定例ミーティングを開催しました。直近で関連イベントが続いたこともあり、今回のテーマは「ポートフォリオ」。2月8日のアーバネット神田での研修会・発表会、2月11日の大阪医科薬科大学での「P-FES 2026～第18回近畿家庭医療・総合診療専攻医ポートフォリオ発表会～」に

参加したメンバーも多く、約10名で活発な意見交換を行いました。

発表では、薬袋の工夫や創傷治療（フルタメソッド）の実践、BLSとミニコンサートを組み合わせた地域活動など、多彩でユニークな取り組みが紹介されました。医師と薬剤師で扱う領域や指導体制

が異なる点も話題となり、職種間の視点の違いについて理解を深める機会となりました。また、運営に携わった参加者からは、準備や当日の工夫、裏方の苦勞も共有されました。竹内さんからは、近畿ブロックのKONPass（年会費3,000円）に薬剤師も参加可能となったことが紹介され、ポートフォリオの質向上に向けた活用が呼びかけられました。

特に印象的だったのは、元薬剤師である高齢患者さんとその家族とのコミュニケーション事例です。専門職としての経験を持つ“先輩”とどう向き合うか、あるいは子どもが薬剤師である親に意見

を伝える難しさなど、専門性と関係性が交差する場面の奥深さを考えさせられました。

私自身も今年、認定資格更新のためポートフォリオを提出しました。振り返りのツールとしての意義に加え、文章化し共有する場があることの価値を実感しています。同時に、症例報告や活動報告など多様なアウトプットも実践知の蓄積に重要ではないかと感じました。多角的な視点からポートフォリオの意義を見つめ直す、実りある1時間となりました。次回は4月開催予定です。



和歌山県支部の新体制発足と和歌山県立医大総合診療科外来の開始のお知らせ

和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 内科・総合診療科 梶本 賀義

和歌山県支部では、2026年2月27日に県支部代議員会を開催し、新体制となりました。これまで支部長を務められた廣西昌也先生がご退任され、新支部長として、梶本賀義（和歌山県立医科大学附属病院紀北分院）、副支部長に蒸野寿紀先生（和歌山県立医科大学地域医療支援センター）、堀谷亮介先生（橋本市民病院総合内科）が新たに就任しました。会計は川邊哲也先生（和歌山県立医科大学保健看護学部）が引き続き担当されま

す。改めて自己紹介ですが、私は2001年に和歌山県立医科大学を卒業し、脳神経内科を専門として研鑽して参りました。2021年より現在の紀北分院内科・総合診療科に赴任し、地域に密着したプライマリ・ケア・総合診療に携わり、訪問診療にも従事しております。紀北分院では総合診療専門研修プログラム、新・家庭医療専門研修プログラム

があり、修了した者も含め専攻医も徐々に増えてきております。

今後、和歌山県支部の活動としては、県内の他の施設や専門研修プログラムの連携を今まで以上に密にし、若手専攻医やコメディカルの方々にも参加しやすい活動を計画して参りたいと思います。日常診療に役立つ学びの機会を増やし、和歌山らしいプライマリ・ケアの活動の舞台を広げていきたいと思ひます。また今春より、和歌山県立医科大学では副支部長である蒸野先生が中心となって新たに総合診療外来が開始される予定です。学生や初期研修医に対する教育を中心としてこれからの発展が期待されます。

このように和歌山県支部では新体制のもと、地域のプライマリ・ケアの発展に貢献できるよう活動を進めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

WONCAへの道



2026年3月25日から27日に渡り、フィリピンIloilo市にてWONCA Asia-Pacific Regional Conference in 2026が開催されます。フィリピンでは、これまで3度、WONCA APRが開催されましたが（1979年、1993年マニラ、2011セブ）、今回は4度目の開催となります。「家庭医たちに与えられた、人々/家族/コミュニティをケアする力」というテーマは、大変魅力的ではないでしょうか。今回の大会はPhilippine Academy of Family Physicians (PAFP)と合同開催され、様々な実践的イベントが企画されているようです。

さて、このPAFPですが、今年は創設65年にあたるそうで、日本と比べても格段に長い総合診療の歴史をもっておられるとのこと。"Think Globally, Act Locally." の言葉のとおり、それぞれの地域で活動しつつ、世界とつながり、知恵と経験をもって昨今の課題を乗り越えていくことができればいいですね

尚、2029年には日本で [WONCA WORLD](#)（世界家庭医機構 世界大会）が、JPCA学術大会2026と同じく京都国際会議場にて開催される予定です。 次の大きな目標の一つになりそうですね！

学術大会ホームページ <https://www.wonca-apr2026.org>

LINEオープンチャット「WONCA APR 2026 ILOILO」

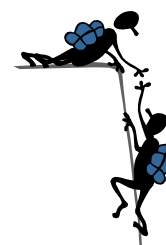
→ [*JPCA会員によるWONCA APR2026に関する情報交換を目的としたLINEグループ](#)

2026もやっぱりKONPass！！

近畿ブロックでは、毎年度ごとに、専攻医および指導医向けに研修サポートをする有料サービス（KONPass : Kinki Official Navigation Passport）を用意しています。 <https://konpass2025.peatix.com/view> パスポート購入者は近畿ブロックのイベント参加、近畿ブロックの教育資料、歴代優秀ポートフォリオへのアクセス、コミュニティの加入、オンライン指導の特典がつきます。年会費は 3000 円と大変お得な内容になっています。

購入特典

- 三大イベント参加
 - ・春のスタートアップ
 - ・毎月第一木曜日のポートフォリオブラッシュアップ
 - ・冬のポートフォリオ発表会（通常は 2000 円のところ無料に！）
- 教育動画コンテンツへのアクセス
- バーチャル医局を用いたオンライン指導



2026年度も、KONPass を持って、研修の荒波を乗り越えていきましょう！

お知らせ

●近畿ブロックのレジェンドたちのライフヒストリー&感動秘話

- # 1 石丸裕康先生
- # 2 木戸友幸先生
- # 3 中山（畔田）明子先生
- # 4 雨森正記先生
- # 5 鈴木富雄先生
- # 6 松井善典先生
- # 7 竹中裕昭先生
- # 8 三澤美和先生
- # 9 3人の専攻医たち
- # 10 吉本清巳先生、および第35回近畿地方会の実行委員会のみなさま
- # 11 大島民旗先生、川島篤志先生、稲岡雄太先生（第36回近畿地方会大会長他）
- # 12 武田以知郎先生
- # 13 廣西昌也先生、梶本賀義先生（第37回近畿地方会大会長、実行委員長）
- # 14 角田秀樹先生
- # 15 官澤洋平先生
- # 16 合田 建先生



<https://podcasts.apple.com/jb/podcast/legend-of-gp-in-kpca/>

17 鈴木富雄大会長他 JPCA2026実行委員会より 2026.3時点での進捗

今後も続々と配信予定です。乞うご期待！！

ニュースレター編集委員大募集！！

近畿ブロック ニュースレター編集部では、近畿ブロック支部や各府県支部の取り組み、会員のみなさまの近況などを中心に編集作業に取り組んできました。3ヶ月毎、年4回の発行を行っており、本誌2026年春号は51号にあたります。引き続き、様々な立場、役割を担っている会員のみなさまの活動を幅広く取り上げていくことができると考えております。ニュースレターの編集にご興味のある方、一緒に面白い記事を作成してみようかなと思った方は、編集部 kentaroasakura@gmail.com 朝倉 までご一報下さい。



編集後記

約1年前、第17回学術大会に向け、大会長鈴木富雄先生を筆頭に近畿ブロック支部を中心とした実行委員会が立ち上がりました。大会のテーマ「つながる、つなげる。つなげる、つながる。」のとおり、様々な人たちの知識や実践、思いがつながり、新たな価値を生み出す起点となる大会になればと、実行委員メンバーの一人として期待しているところです。

思い返せば、第一回目のチームミーティングは様々なアイデアを遠慮することなく自由に挙げる「発散」からはじまりましたが、尽きることのない可能性を感じる最も楽しいひとときでした。そこからは、アイデアを現実的な企画として落とし込む作業に移っていくことになるのですが、時間や費用も含めた様々な制約の調整や、実務的な作業などが続きました。大会長、実行委員長、各チームリーダーの働きには頭があがりません。そのような過程を経て、ようやく学会当日の姿をイメージすることができるほど少しずつ形になりはじめてきました。初夏というよりは、夏の気配を感じる5月末、みなさまと京都でお会いできることを楽しみにしています。

今号(51号)は、学術大会、第38回近畿地方会、P-FESをはじめ、しゃべりば企画、大学総診だより、薬剤師ワーキンググループと、盛りだくさんの内容となりました。ご執筆いただきましたみなさま、ありがとうございました。 [A]

2026.3.24

